

校長先生の初恋物語

第68話 泣くなきのこ君

きのこ君は、秘密練習を1日も休まず、朝の6時30分にいました。それどころか、途中からは、とっくんが6時30分に行くと、すでに運動場を走っていました。あとから知りましたが、きのこ君はみんなと同じ練習をしてはためだと、みんなよりもさらに30分早く来て。6時から一人っきりで走っていたのです。



きのこ君はおとなしい人です。気弱な人です。みんなは、ジャイアンにさからえない、ジャイアンからのいじめを受けていても何も言えない子って思っていました。でも、違います。きのこ君は、ジャイアンのことが分かっているんです。ジャイアンの一番の理解者です。そして、きのこ君の中にも、勇気の種はしっかりあって、このリレーの時に、ジャイアンに向かって勇気の花を咲かせています。きのこ君はすごい人なんです。

でも、きのこ君がいくらがんばってきたといっても、そんなにすぐに変わるものじゃありません。走るのはまだまだ遅いです。秘密練習をしても、走る速さはそれほど変わったとは言えません。ですから、きのこ君は、あっという間に、1組3組に

抜かれました。さらに差がどんどんついてしまいます。これがいつもの、負けパターンです。きのこ君はみんなにもうしわけないと思ったのか、泣きながら走っていま

す。
1組3組の、口の悪い男の子たちが、いっせいに喜びます。「イエーイ。きのこ君、いつもありがとーっ。」
むかついてきますが、事実ですから何も返せません。でも、1人だけ、言い返した人がいました。

「うるさーい。だまってろーっ。」
なんと、ジャイアンです。ジャイアンがおっきな声を出して、おこっています。

とっくんはその時気がつきました。そんなジャイアンのところに、アンカーの足長君が近づいて、ジャイアンに、なにやら言っています。ジャイアンは、足長君から何か言われたあと、ふてくされたような顔をして、座り込んでいました。足長君は何て言ったんだろう。気になりました。

それよりも、今はきのこ君です。完全に2組はおくれています。でも、ここから残りは4人。次が足の速いダンプさん。さらには、学校で2番目に足の速いきんに君。そして、しっかり走るかが問題のジャイアン。アンカーは、足長君です。4人のうち、3人は間違いなく速いです。なんとかなるかもしれません。わずかな奇跡は残っています。

足長君は笑ってました。きんに君をよく見ると、なんとあごにひげをセロハンテープでつけていました。ジャイアンは足長君から何か言われてやる気がないのか、座り込んだままです。そしてダンプさんはというと。大丈夫。ダンプさんは、完全にやる気モード。恐ろしい顔になっていました。この顔は、きんに君が足の骨を折った時、階段を駆け下りていったあの時の顔です。

つづく
次回予告 ダンプのパワーを見せてやれ

